

フレックス大学院国際共同研究（長期海外インターンシップ）

International Internship

担当教員：高橋辰宏、主指導教員、プロジェクト教員 他

担当教員の所属：

開講学年：3～5年次 開講学期：前期・後期 単位数：4単位 開講形態：実習

開講対象：フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院

科目区分：必修科目

【授業概要】

・テーマ

国外の大学・企業等の研究室において研究活動を行うことで、専門分野の更なる知識の強化を図るほか、海外の文化・社会・価値観を分析・理解する。コミュニケーション能力と研究能力を飛躍的に向上させ、グローバル人材として活動するための実践力を確実に習得する。派遣期間は1カ月間から半年程度とする。

・ねらい

国外の大学・企業などで、長期間のインターンシップを実施する。派遣される研究室での専門分野への理解を深めてグローバル規模での最先端の技術と理論を知るとともに、世界の研究動向や教育・研究手法を習得する。また異なる文化圏において長期間に渡って滞在して研修を行うことで、異文化適応やグローバルコミュニケーション能力の向上を目指す。

・目標

研修を通じて、最新研究の動向を把握し、実際に研究に取り組む。研究成果を英語で発表できる程度の能力を身に付ける。また研究課題に関して、英語でコミュニケーションを取りながら解決する能力を実践的に身に付ける。グローバルな視点にたつて研究を進めるとともに、鳥瞰的観点から日本の研究状況なども的確に理解する。

異文化のなかで共生することの意義と価値を肌で感じ取り、グローバル化の拡大、技術革新の急速な進展のなかにおける有機材料の可能性、潜在的ニーズ、および事業化を検討する。また有機材料研究を通じた新たなシーズ創出にもチャレンジする。海外の文化・価値の差異を背景に、日本とは異なる嗜好性とチャネルの把握に努め、シーズとニーズのぶつかり合いを経験しながら、販路開拓や新規市場における製品開発について考察できる能力も身に付ける。

・キーワード

先端的研究、革新技術、異文化コミュニケーション、実践力、行動力、異文化適応、ディベート力、プレゼンテーション力、学術英語、国・地域分析

【授業計画】

・授業の方法

オリエンテーションと派遣先の選定、事前の調整・準備のあとに、派遣先の大学、企業の研究所・研究室において研究に取り組みます。

海外の研究室に配属された後は、受入れた研究室において、研究計画を基に研究を行います。基本的に研究グループに所属して取り組みます。

研究成果の発表は、派遣先大学あるいは企業、山形大学の双方で行います。

派遣前には、各自で「海外旅行保険」に加入します。知財管理や特許など、派遣国の各種制度を十分に理解して、現地の法令を順守してください。

・日程

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画書の作成

第3回 派遣先研究室の決定と派遣前調査

第4回～第12回 連携大学、企業の研究機関・研究所における共同研究（海外）

第13回 研修内容および研究内容の整理

第14回 研究成果発表会の準備

第15回 研究成果発表会・まとめ

※内容および担当教員は変更する場合があります。

【学習の方法】

・受講のあり方

自ら主体的に研修に取り組むとともに、研究に関する課題発見とその解決に努めてください。研究内容については研究室の指導教員と相談のうえで修正を行いながら進めてください。すべての研修が終了する際には、成果報告書を山形大学と連携大学あるいは企業に提出します。

派遣先の大学、企業では、配属先の教員や同僚・研究員などと積極的にコミュニケーションを取ることに努め、現地の文化を理解した上で、社会に溶け込むように努めてください。また研究に関するディスカッションを活発に行ってください。派遣中は、受入機関の定めたルール・規則を守ってください。

・予習のあり方

必要に応じて指示します。日ごろから研究に関連する情報を収集するとともに、現地の経済や社会に関する情報も合わせて収集・分析し、理解するように努めてください。研究室や地域社会のイベントや行事などには積極的に参加してください。

・復習のあり方

派遣先の大学教員（または研修担当員）あるいは企業の担当者から指示を受けてください。

【成績評価の方法】

・成績評価基準

担当教員と派遣先の受入教員あるいは担当者が評価します。

・方法

研修への取り組み姿勢と意欲、研究内容の独創性、研修における研究成果、研修成果報告書、研究成果発表会における内容と発表方法で総合評価。

【科目の位置付け】

フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院では必修科目となります。

【テキスト】

・随時、紹介します。

【その他】